

日本青年会議所 建設部会  
2019年度 副会長 所信

副会長（北海道・東北地区担当） 國分 久徳

日本に於ける建設業は時代と共に変化し役割は多岐にわたります。農業への参入やICT・IOTの導入など、圧倒的に進む人口減少を背景にその役割は増すばかりです。日本各地で起こる災害では建設業を無くして復興は無く安全・安心な生活は出来ません。2020年に東京五輪を迎えるにあたり、その特需とは裏腹に都市部への人材の流出や資材の高騰は避けては通れない問題であり、その余波をダイレクトに受けるのは地方の建設業者です。今や人の生命・財産をも守らなければならぬ建設業者が時代の余波を打ち破り確固たる経営基盤を確立してこそ、若者が夢を描き建設産業へ従事する喜びや誇りを持てる未来を創造できるものと考えます。

私の所属する福島ブロック建設クラブは、2011年に休会を余儀なくされました。それは、東日本大震災に起因する圧倒的工事量の増加と深刻な人材不足でした。行政から発注されるインフラの復旧を中心とした土木関連工事や、危険判定を受けた建物解体工事及び新築工事、従来の基準を満たさぬ建物の耐震化工事などが主でした。そこに拍車をかけ深刻な人員不足を招いたのは、原子力災害に伴う放射性物質の除去工事いわゆる除染工事です。行政から発注される優先順位の高い公共工事ですさえ不調となり、工事を行えない。やりたくても技術者が乏しく管理が行えない。普段だったら行える工事も、除染作業員として稼働の為受注できない。もし、それぞれの企業が確固たる経営基盤を確立し歩むことが出来るのであれば災害を受けた地域に於いて、それは復興であり災害大国日本の歩みであると考えます。災害は時に人命を奪い甚大な被害をもたらします。悲しみ・苦しみを乗り越え、現代の物づくり日本・建設産業があるのです。全国の青年会議所メンバーから成る、我々建設部会だからこそ出来る情報共有・発信があると信じています。

若者が夢を描ける建設産業へ、私たちは憧れるかっこいい背中を見せなければなりません。変化は好機、一步踏み出し共に時代を切り開いて参りましょう。真に豊かな社会づくりを目指して。